ごあいさつ

理事長　藤原健司

皆さまにおかれましては、平素より京都北都信用金庫にご支援ご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年度も当金庫へのご理解を一層深めていただくため、「京都北都信用金庫ディスクロージャー 2023」を作成いたしました。ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

日本経済は、ロシアのウクライナ侵攻による資源価格の高騰や急激な円安の進行により、物価上昇が続く一方で、政府がコロナによる行動制限を徐々に緩和してきたことから、景気に持ち直しの動きも見られました。今後も国内の消費者物価の上昇から日銀による金融政策の正常化に向けた動きも想定されますが、米国地銀の破綻をきっかけとした米欧の金融不安などから、先行きへの不確実性が増してきていることが懸念されます。

この間、当金庫においては、引き続きコロナが地域社会や経済に大きな影響を及ぼす中、地域のお客さまの事業支援や生活支援に取り組んでまいりました。

預金は、法人の流動性預金の増加などから、期末残高は前期比 55 百万円増加の 8,024 億円となりました。

また、貸出金は、コロナ関連融資先など、影響を受けている事業者を中心に業況や資金繰りをタイムリーに把握し経営支援に取り組んだことなどから、期末残高は前期比 17 億円増加の 3,748 億円となりました。

損益面については、利回り低下による貸出金利息の減少に加え市場金利の上昇を見据えて保有有価証券を一部損失確定したものの、経費削減に努めたことや与信関連費用の減少などから、当期純利益は前期比 5 億 56 百万円増加の 9 億 76 百万円となりました。

自己資本比率については、信金中央金庫の優先出資を一部消却したことなどから、前期末比 0.69 ポイント低下の 8.57％となりました。

地域経済の回復が見通しにくい中、取引先の資金繰りを支えるとともに、販路拡大、経営改善、事業再構築など様々な課題の解決に向けて事業者に寄り添い、踏み込んだ本業支援を行っております。また、ガバナンスを強化し急激な金利上昇による有価証券等の評価差額への対応など、各種リスクへの対応や社会経済の潮流でもあるカーボンニュートラルなどＳＤＧｓに対する活動を展開してまいります。

引き続き「地域活性化の実現」に向けて全力で取り組んでまいりますので、今後とも会員の皆さまの一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和５年７月